

附
竺法護翻譯歷、羅什年譜

1. 苻登、前秦ヲ襲ギテ太初元 2. 姚萇改元シテ建初元、
 3. 後燕改元シテ建興元 4. 西秦ハ建義ニ 5. 呂光、姑
 臧ニ後涼ヲ立テテ太安元 6. 北魏道武帝、平城ニテ帝
 ラ稱シ、登國元 7. 西燕ハ此年内ニ昌平元、建明元、
 建平元、建武元、中興元ノ五回改元アリ、更始ニハ二
 年ハナシ

以上凡そ六十九部は譯出の年月の傳へられて居るものである。出三藏記集では、其當時現存した經九十(五)部と、現存しない經六十四部とを挙げ、合せて百五十四部となし、其間譯出年月を註記して居る。九十五部を九十部となして、百五十四部

308	307	306	305	304	303	302	
懷帝	永嘉元	光熙元	永興元	永安元	太安元	太安元	
二	元	元	元	元	元	元	
普曜經 ⁸ 五月	無極寶經 ¹ 三月五日 阿差末經 ⁴ 十二月一日	譬喻三百首經 ²⁵ 二月七日 〔八王ノ亂平ラグ〕	人所從來經 ¹ 正月廿五日 十等藏經 ¹ 正月二十八日 鷹王五百鷹俱經 ¹ 二月二日 誠具經 ¹ 二月七日 決道俗經 ¹ 二月十一日 猛施經 ¹ 二月廿日 城喻經 ¹ 三月一日	胎胎經 ¹ 八月一日 十地經 ¹ 十二月四日 摩調王經 ¹ 正月十八日 照明三昧經 ¹ 二月一日 所欲致患經 ¹ 二月七日 嚴淨定經 ¹ 二月十八日 賈客經 ¹ 三月二日 更出阿闍世王經 ² 四月十六日 滅十方冥經 ¹ 八月十四日	樓炭經 ⁵ 正月二十三日 五蓋疑結失行經 ¹ 四月十二日 菩薩十住經 ¹ 十月三日 順權方便經 ² 四月九日 五百弟子本起經 ¹ 五月一日 佛爲菩薩五夢經 ¹ 五月六日 如幻三昧經 ² 五月十一日 彌勒本願經 ¹ 五月十七日 舍利弗悔過經 ¹ 五月二十日	建初元	神鳳元
永鳳元	晏平元	元	元	元	元	元	
二	二	四	元	三	二	二	
	〔慕容廆、大單于と稱す〕				劉淵、漢帝 ト稱ス、 照元、成帝 李雄、建 興元、建 五胡十六 ノ亂ノ初		

301	300	299	298	297	296	295	294	293	292	291	290	289
惠武帝	惠武帝	惠武帝	惠武帝	惠武帝	惠武帝	惠武帝	惠武帝	惠武帝	惠武帝	惠武帝	惠武帝	惠武帝
(建始元)	永寧元	(太平元)	永康元	永平元	永熙元	永熙元	永熙元	永熙元	永熙元	永熙元	永熙元	永熙元
大淨法門經 ¹ 三月二十六日	賢劫經 ⁷ 七月二十一日(元康トアルハ誤) 〔八王ノ亂起ル〕	漸備一切智經 ¹⁰ 十一月二十一日	聖法印經 ¹ 十二月二十五日	觀行不移四事經 ¹ (元康中ニ出ス) 鹿母經 ¹ (元康ノ初メ)	勇伏定經 ² 四月九日 度世品經 ⁶ 四月十三日 大哀經 ⁷ 七月七日 如來興顯經 ⁴ 十二月二十五日 〔放光般若經譯五月十五日〕	馬王經 ¹ (永平年中) 普義經 ¹ (永平年中) 四婦喻經 ¹ (永平元)	法沒盡經 ¹ 二月七日 給孤獨明德經 ¹ 年末	寶髻經 ² 七月十四日	文殊師利淨律經 ¹ 四月八日 離垢施女經 ¹ 十二月二日 麗逆經 ¹ 十二月八日			

となすのは、道安録にないもの五部が入つて居るが、それを数へないからである。百五十四部の中六十六部のみが譯出の年月があるに過ぎないから、半数にも満たないのである。然しながら、武帝の泰始二年から、惠帝を経て、懷帝の永嘉二年までの年月間のみであるから、譯出年月の傳はらないものも、恐らく此間を出でない年月間のものであらうと推定せられる。即ち譯出の活動は二六六―三〇八年の四十三年間で、其間二七四―二八三年を除くのである。

竺法護の祖先是月支の人であるが、燉煌に移り住んで居た。法護は八歳の時出家し、外國沙門竺高座を師となしたといふ。竺高座の高座は尊稱で、竺は天竺の人を表はすから、外國沙門はインドの人であつて、其の名が傳はらなかつたのである。それで竺法護といはれるし、月支人の裔であるから、時には支法護ともいはれる。行に勤め、學は萬里に師を尋ねて、六經、百家の言まで通じたといふ。

西晋武帝の世には寺廟圖像は京邑に崇められたが、大乘の深經は西域に在つて未だ中夏には傳はらなかつたので、竺法護は慨然志を起し、師に隨つて西域諸國を遊歴し、三十六の外國の異言、及び書を學び、梵本を齎らして中夏に歸り、燉煌から長安に至るまで、沿道で傳譯をなしたといふ。武帝の世に寺廟圖像のみ崇められるといふのは、實は武帝の世までは、の意味に見なければならぬことは、武帝の世の第二年に、法護が譯出をなすからである。武帝の世から發憤して西域を遊歴したのではなくて、それ以前である。三十六の外國語に通じたとはよくいはれるが、當時は、西域は三十六ヶ國といはれて居たからで、三十六ヶ國が凡て言語を異にして居たのではあるまい。従つて、行はれて居た凡ての言語に通じたといふことに外ならないが、然し主として梵語であつて、相當俗語化して居たことは譯經から見れば明かである。

譯出年月の表で見ると、泰始十年(二七四)から太康四年(二八三)まで十年間は一も譯出がない。傳記に、法護は武帝の末に深山に隱居し、後に長安の青門外に寺を立てて精勤行道し、徳化四布して僧徒千數來つて宗事したとあるから、武帝の末ではなくして、武帝の在位二十五年間の十年目から十年間となる道理である。長安の青門外に寺を立てるとあつても、最初に

譯した須眞天子經は、長安の青門内の白馬寺の中で譯したものであるから、青門内には已に白馬寺があつたのである。

二八四年に譯した修行道地經も、阿惟越致遮經も、共に、其經記によれば、燉煌で譯出したのであるから、當時は故郷燉煌に居たのである。次年二八五年の譯出は何處であるか判らないが、其次年二八六年譯出の持心梵天經は長安に於てであり、正法華經は二九〇年洛陽で寫した比丘康那律が、經を持つて白馬寺に至り、法護に對し、深義を講出してもらつたとあるから、洛陽で譯したのであらうが、光讚般若經は長安での譯出であらうといはれて居る。従つて二八六年には長安、洛陽に居たのである。

其外、法護は諸所で譯をなして居るが、傳に、佛化を宣隆すること二十餘年、後に惠帝の西のかた長安に幸するに値うて、關中蕭條、百姓流移せしかば、門徒と與に、地を避けて、東下し、澠池に至り、疾に遘うて卒す、春秋七十有八、とある。二十餘年といふのは、二八四年修行道地經、阿惟越致遮經を燉煌で譯してから、次年又は次々年に長安、洛陽に出でた以後を指すのであつて、二八四年から永嘉二年までは、二十五年である。そして惠帝が長安に幸したといふのは、惠帝は少なくとも一回は廢せられ、それは恐らく三〇一年であるが、其後にも八王中の三王の爲に專横を極められ、三〇四年長安に移り翌年七月還つた。天下全く亂れて正道は行はれなかつた。竺法護の東下したのは三〇四年以後なることはいふまでもないが、三〇八年に譯出があるから其年か翌年かに移つたのであらう。澠池は昆地ともあるが、誤である。澠池は河南省澠池縣西十三里で、洛陽の少し西、現今は一停車場である。移つてから後も、長く生存して居た如くでもないから、大體三〇一年と見れば、此時七十八歳である。従つて其一生は二三三―三三〇年で、佛圖澄より一歳若いことになる。二六六年は三十四歳で、これより七十八歳まで、其一生の全部をあげて翻譯に従事したのである。

シナの古い時代の翻譯は安世高、支謙、支謙、竺法護を以て最も重要となす。安世高は一四八―一七一年頃の二十餘年に、三十四部四十卷を譯すとせられ、支謙は安世高と殆ど同時代とせられるが、譯出は一七九年と一八五年との兩年が明記せられ

358	357	356	355	354	353	352	351	350	349	348	347	346	345
	升平元	十二	十一	十	九	八	七	六	五	四	三	二	永和元
	二												穆帝
	十四歲	十三歲	十二歲	十一歲	十歲	九歲	八歲	七歲	六歲	五歲	四歲	三歲	二歲
	十五歲												

(僧誓生ル)
 (道恒生ル)
 弟ノ弗沙提婆生ル
 (佛圖澄寂)(曇影生ル)
 (道安牽口山ニ入ル)
 出家、母モ俱ニ出家セルナラン、母ハ初果ヲ得タリ
 師ヨリ經ヲ受ケテ誦シ、又義ヲモ授カル、日ニ三萬二千言ヲ誦ス
 母ト共ニ罽賓ニ到ル、槃頭達多ニ雜藏、中舍、長舍、四百萬言ヲ受ケテ誦ス、
 外道ト對論シ、勝チテ國王ノ殊遇ニ預ル(道安襄陽ニ入ル)
 (僧叡生ル)
 (慧遠、慧持、道安ノ弟子トナル)
 母ト共ニ龜茲ニ還ル、中途、月氏ノ北山ニ至リ、一羅漢ガ此兒三十五歲マデ
 破戒セズバ、大法ヲ興サン、破戒セバ才明ノ法師タルノミト豫言セリ、(慧
 叡生ル)
 母ト沙勒國ニ至リ、佛鉢ヲ頂戴ス、停マル事一年、其冬阿毘曇ヲ誦シテ義ニ
 通ズ、コレハ大毘婆沙論ナリ、又、六足論、增一阿含ヲ誦シタリ
 此年ハ沙勒國ニアリシナラン(苻堅、大秦天王ト稱ス)
 龜茲ニ還ツテ尊敬セラレ、四韋陀、五明論、外道ノ經、陰陽星算ニ通ズ

羅什年譜

344	東晉成帝	建元二	一歲	龜茲國ニ羅什生ル 母者婆、二十二歲頃(道安三十三歲、慧遠十一歲)
-----	------	-----	----	----------------------------------

て居るから、七年間に十三部二十七卷の譯出と知られ、安世高に次ぐが、此二人の翻譯には、一二を除いては助譯者が傳へられて居ない。恐らく逸したのであらうが、最初の譯出であるから、大いに苦心したものであらう。支謙は大體一九三年―二五三年の人であるが、二二二年に吳に入つて以來、二五二年新帝が即位してから、退いて山に入つたので、其間三十一一年程に三十六部四十八卷の譯出に従事した。各經の譯出年月が譯されて居ないから、年譜が作れない。之に次いで竺法護の譯がある。竺法護の譯出が百五十四部三百九卷の多數であると、其期間の四十三年に亘る長期であるとは、以前の三人よりもまさつて居るし、後世に見ても珍らしい。而も竺法護は王公貴顯の保護を受けたのでもなく、獨力、此大業をなしたのであつて、これは後の眞諦三藏のみに例を見る。羅什、菩提流支、玄奘、不空の如き大翻譯家はそれぞれ皆強力な帝王の保護の下に大業をなしたのであるから、此點で竺法護の努力は高く仰がるべきものである。

又竺法護は諸所で翻譯をなしたが、これは梵本を諸所に持廻つたのではなくして、得た所で譯出したものであらう。當時シナの諸所に梵本があつたのであらう。恐らく、西域、インドから來た沙門や信者がこれ等を持つて居て、誦して居たものもあるであらう。佛教が傳來してから、安世高、支謙の譯出のあるまで七八十年間、史上に何事もいはれて居ないが、此間に沙門や信者の佛經を持來つて誦して居たものもあつたであらうことが、かかる點から推定せられると考へられる。

382	381	380	379	378	377	376	375	374	373	372	371	370	369	368
						太			寧	孝	咸	簡		
						元			康	武	安	文		
						元			元	帶	元	帝		
七	六	五	四	三	二	元	三	二	元	元	元	元	四	三
三十九歲	三十八歲	三十七歲	三十六歲	三十五歲	三十四歲	三十三歲	三十二歲	三十一歲	三十歲	二十九歲	二十八歲	二十七歲	二十六歲	二十五歲

羅什ノ名聲、シナニモ聞ユ(慧觀生ル)

(道安、比丘大戒ヲ譯サシメテ序ス)

(帝ハ成帝ノ叔父、モト會稽王見ナリ、清談ヲ好ミ、文化人ノ中心ナリ)

(道融生ル)(高句麗ニ佛敎初傳)(慧義生ル)

(道安、經錄ヲ作ル)(竺潛寂)

(道生、慧詢生ル)

(苻堅北支ヲ統一ス)(車師前部王及ビ龜茲王弟、苻堅ニ來朝ス)

(正月、太史、苻堅ニ奏シテ、外國ノ分野ニ星出ヅ、大智徳人來リテ中國ヲ輔クベシ、ト、堅云ク、是レ西域ノ鳩摩羅什ナラン、ト)

(建元十五年苻堅襄陽ヲ攻メ、道安ヲ長安ニ迎フ)

(法華學者竺法義寂、墓ガ中興寺トナル)

(東夷西域六十二國苻堅ニ朝宗ス)

苻堅、呂光ヲ遣ハシ龜茲、烏耆等ヲ討チ、羅什ヲ得サシム、呂光九月出發

367	366	365	364	363	362	361	360	359
	廢			興	隆	哀		
	帝			寧	和	帝		
	太			元	元	元		
	和			元	元	元		
	元			元	元	元		
二	元	三	二	元	元	元	五	四
二十四歲	二十三歲	二十二歲	二十一歲	二十歲	十九歲	十八歲	十七歲	十六歲

此頃佛陀耶舍ニ十誦律ヲ學ブ、又、莎車王子須利耶蘇摩ニ大乘ヲ謔稟シ、阿耨達經ヲ説カレテ大乘ノ要義ニ通ジ、中百二論ヲ讀ム、十二門論ヲモ誦ストイフ(佛馱跋陀羅生ル)

龜茲國帛純王ノ新寺ニテ放光經ヲ讀ム、後、雀離大寺ニテ大乘經ヲ讀ムトイフモ、此頃ナラン、魔妨ゲントシテ果タサズ、停マル事二年

母ト共ニ龜茲ノ北界ノ溫宿國ニ到リ、一道士ト對論シテ歸依セシム、羅什ノ名聲西域ニ振フトイフハ此頃カ、龜茲王羅什ヲ迎ヘ、王女ガ尼トナリ、大乘ヲ敎ヘラル(僧導、僧業生ル)

王宮ニテ受具、卑摩羅叉ニ十誦律ヲ學ブ(慧嚴生ル)

此頃カ、母天竺ニ往カントシ、帛純王ニ國ノ衰ヘルヲ豫言シ、羅什ニ大乘ヲ眞丹ニ弘メヨト囑シ、天竺ニテ三果ヲ得タリトイフ

龜茲ニ停マリ、新寺ノ側ニテ放光經ヲ讀ミ、魔妨ゲントシテ果タサズ?(梁傳)、停マル事二年、(習鑿齒道安ニ會フ)(僧弼生ル)(苻堅ノ建元元年)

(支道林寂)

羅什尉寶ニ到リ、槃頭達多ニ會フ(出三藏)、俄ニ槃頭達多到ル(梁傳)、羅什大乘ヲ説イテ遂ニ槃頭達多ヲ改宗セシム、羅什名聲益々高シ(求那跋摩生ル、達摩モ此頃生ル)

405	404	403	402	401	400	399	398
義熙元		元興二	隆安六	隆安六			
六十二歲	六十一歲	六十歲	五十九歲	五十八歲	五十七歲	五十六歲	五十五歲
七	弘始六	三	二	神鼎元	二	咸寧元	三

此頃呂光、外國道人羅又ガ病ヲ療スト稱セシカバ給賜ヲ多クシタリ、羅什、羅又ノ詐ヲ見破ル、

十二月呂光死シ、子ノ紹襲グ、纂之ヲ殺シテ位ニ即キ、改元ス

後秦ハ弘始元年トス、(三月法顯、インドニ出發ス、恐ラク六十一歲)

龍度々出ヅ、羅什、纂ニ德ヲ修ムル事ヲ進言ス、聽カレズ

纂ハ從弟超ニ殺サレ、超ハ兄ノ隆ヲ位ニ即カシム、改元ス

五月姚興呂隆ヲ討チ、九月降シ、羅什ハ十二月二十日長定ニ迎ヘラレ、國師トセラル

弘始四年、西明閣、逍遙園ヲ譯場トシ、大論ヲ譯シ始メ、百論ヲ譯ス(僧叡序)、(法和此頃寂)此頃佛陀耶舍姑臧ニ至ル、羅什ノ長安ニ去リ、美妓ヲ容レタルヲ聞ク、(七月二十八日白蓮社結成)

弘始五、大品般若ヲ譯ス、(桓玄、沙門ヲシテ王ヲ拜セシメントス、十二月皇帝ノ位ニ即キ、國ヲ楚ト稱シ、永始元年トシ、沙門ノ王ヲ拜スルヲ息メシム)

百論改譯(僧肇序)、四月二十三日大品校定訖ル(永始二、四月桓玄亡ヅ、南面スル事八十日)十月十七日中寺ニテ弗若多羅、羅什等百餘人ト十誦律ヲ譯シ始ム、三分ノ二ニシテ弗若多羅寂ス

十二月二十七日大論ノ譯訖ル、コレマデニ、又、禪經、戒律、禪法要解等ヲ出ス

此年頃、道生、慧叡、慧嚴、慧觀ガ南地ヨリ來リテ就學ス、(此年頃、泰山ノ僧朗寂)秋、曇摩流支來リ、羅什ト十誦律ヲ譯了ス、研精考覈ハ羅什ノ寂マデ成ラズ

397	396	395	394	393	392	391	390	389	388	387	386	385	384	383
隆安元	安帝													
五十四歲	二十一	二十	十九	十八	十七	十六	十五	十四	十三	十二	十一	十	九	八
	五十三歲	五十二歲	五十一歲	五十歲	四十九歲	四十八歲	四十七歲	四十六歲	四十五歲	四十四歲	四十三歲	四十二歲	四十一歲	四十歲
二	龍飛元	七	六	五	四	三	二	麟嘉元	三	二	太安元			

龜茲王帛純戰死シ、弟震立テラル、澠水ノ戰、佛陀耶舍沙勒ニ在リテ、羅什ノ呂光ニ捕ハレタルヲ聞キ、十餘年停マル

呂光、羅什ヲ伴ツテ歸ル、苻堅殺サル、(僧肇生ル)後秦立チ、王ヲ稱ス

道安寂(曇無讖、謝靈運生ル)

呂光、羅什姑臧ニ在リ、十二月呂光後涼ヲ立テ、王ト稱シ、太安元年トス、後秦長安ニ帝ヲ稱ス

呂光ノ將軍等叛キタルモ平ゲラル、(竺法汰寂)

姚萇、羅什ヲ要請セシモ、呂氏凡テ許サマリキ

後秦姚萇死シ、興襲ギ、帝ヲ息メテ王ト稱ス、皇初元年、(求那跋陀羅生ル)

呂光、天王位ニ即ク

沮渠界成、及ビ從弟蒙遜叛キ、段業ヲ涼州牧トス(北涼)、光攻メテ勝タズ

羅什の寂年は、出三藏記集では晋義熙中とあり、高僧傳は偽秦弘始十一年八月二十日、晋義熙五年（四〇九）となし、更に、弘始七年、八年、十一年の異説があるとし、七と十一とは互に誤つたものであらうというて居るから、十一年と八年との異説があつたことにならうか。恐らく、僧肇の誄が見られなかつたから、かくいうて居るのであらう。僧肇の誄を信ずる外には定めようはなからう。僧肇は其翌年（四一四）三十一歳で寂した。

羅什の譯出は出三藏記集では、三十五部二百九十四卷である。歴代三寶紀になると、九十八部四百二十五卷とせられるが、開元録は、七十四部三百八十四卷となして居る。最初の三十五部が一躍三倍近くなつたり、又、二倍近くなるのも頗る奇であり、最初があまり搜索が足らなかつたかと考へられるかも知れないものの、實は歴代三寶紀が、元來失譯とせられて居たものを、強ひて何れかの譯人に配當したことから起つた點が多いのであるから、先づ出三藏記集のを比較的に正しいと見て、それから研究の歩を進めて行く外には方法は無い。開元録と雖、決して歴代三寶紀の影響を脱して居るのではなく、又、全部が正しいのではないから、譯經と譯者との關係は中々困難な問題となつて居る。

413	412	411	410	409	408	407	406
九	八	七	六	五	四	三	二
七十歳	六十九歳	六十八歳	六十七歳	六十六歳	六十五歳	六十四歳	六十三歳
十五	十四	十三	十二	十一	十	九	八
四月十三日大寺ニ寂ス、僧肇誄ヲ作ル、長阿含譯了	長阿含ヲ譯ス	九月十五日成實論譯了、(七月法顯青州ニ還ル、七十四歳)、四分律譯成ル、	九月八日成實論ヲ譯シ始ム	此頃佛跋陀羅ハ僧習、道恒等ニ却ケラレテ、弟子慧觀等四十餘人ト南方ニ去ル、佛陀耶舍、竺佛念ト共ニ四分律ヲ譯シ始ム	大寺ニ於テ中論、十二門論ヲ譯ス、道生南方ニ還ル、卓摩羅又此頃來リ、羅什ニ會ヒ、其寂後壽春ニテ十誦律ヲ再始シ講ズ	小品般若ヲ二月六日ヨリ四月二十日ニ譯ス	自在王經、禪祕要法經ヲ譯ス、禪法要解ヲ檢校ス
							長安ノ大寺ニテ夏法華經、維摩經ヲ譯ス、(佛跋陀羅長安ニ來ル、四十八歳)、此頃佛陀耶舍長安ニ入り、羅什ノ十住經譯出ノ際常ニ教示ヲ請ハル

索引

呂保 40
呂隆 40
六足論 147, 150
六度集經 68, 102

ワ

ギナヤヤシヤ 113

索引

- 比丘尼大戒 109
- 皮業 77, 82
- 費長房 23
- 鼻奈經 113, 114
- 鼻奈耶經 36, 60, 61, 107, 110, 112
- 鼻奈耶舍 113
- 鞞婆沙(十四卷) 36, 45, 57, 59, 61, 133, 138, 139, 143, 144, 148, 150, 153, 168, 171, 172
- 毘婆沙(阿毘曇) 45
- 毘浮 15
- 百論 49, 137
- 敏見 12, 13
- 敏智 138, 143
- 愍帝 36, 97
- 寶頭盧 27, 28
- 苻健 12, 15
- 苻堅 12, 33, 35, 36, 37, 38, 39, 40, 43, 44, 132, 142, 168, 172
- 苻子朗 38
- 苻登 38
- 苻丕 34, 35, 97
- 布薩羯磨及び戒文 26, 106
- 佛說慧印經 79
- 佛說大生義經 85
- 佛大 117, 122
- 佛圖(又ハ陀)舌彌 109
- 佛圖卓 109
- 佛圖澄 6, 8, 9, 10, 11, 14, 15, 19, 36, 42, 43, 56, 103, 106, 134, 135, 142, 143, 168
- 佛馱跋陀羅 47, 141
- 佛陀耶舍 170
- 弗(又ハ佛)圖羅刹(佛護) 133, 138, 143, 168
- 佛般泥洹經 173
- 弗如檀 34, 120, 123, 125, 126
- 佛護 36, 130, 143, 151, 153, 168
- 佛所行讚 168
- 普曜經 167
- 伏玄度 57
- 分別功德論 174
- 笈歷 20, 21
- 別譯雜阿含 175
- 辯意經 5, 6
- 慕容永 12
- 慕容顛 12
- 慕容眺 15, 38
- 慕容泓 12
- 慕容儁(=俊) 12, 15, 38
- 慕容忠 12
- 慕容冲 12, 37, 38, 166, 168, 172, 173
- 慕容瑤 12
- 菩薩道樹經 83
- 法鏡經 82, 83, 101
- 法華經 47, 133
- 法句經 81
- 放光起盡解 53
- 放光折疑准 53, 56, 63
- 放光折疑略 53
- 放光般若經 19, 33, 34, 36, 52, 116, 119, 120, 121, 122, 123, 125, 128, 129, 130, 134, 135, 137, 166
- 法慧=法海 106
- 法遇 8, 27, 39, 44
- 法顯 174
- 法佐 44
- 法首 44
- 法勝 150
- 法將 55
- 法成 89
- 法常 44, 69
- 法場 5
- 法潛 103, 107
- 法祚 44
- 法堪比丘尼 171
- 法度 125
- 法度 88

- 法饒 120, 126
- 法豐 121
- 法寶 69
- 法立 21
- 法和 16, 36, 37, 42, 43, 44, 45, 46, 146, 149, 154, 166, 170
- 奉法要 98
- 北周道安 42
- 北周武帝 32
- 本行經 167
- 梵摩瑜 161, 162

マ

- 摩瞪(又ハ證, 登)伽 142
- マハーニダーナ・スッタ Tantra 85
- 摩訶鉢羅若波羅蜜經抄序 18, 19, 36, 59, 60, 61, 130, 137
- 摩訶般若波羅蜜經 119, 129
- 摩訶般若波羅蜜鈔經 119, 130, 137, 150
- 彌第 130, 132, 141, 153
- 彌天の道安 18, 42
- 彌妬路 161, 163, 164, 167
- 彌妬路尸利 161, 163, 167
- 彌勒 89
- 密迹(金剛)經 19, 62
- 密迹金剛經, 持心梵天經甄解 53, 62, 63
- 明感尼 174
- 無叉羅 34, 120, 123, 130, 131, 132, 135
- 無著 9, 52
- 無羅叉 120
- 孟元士 117, 121, 122

ヤ

- 瑜伽行 141
- 瑜伽師 141
- 瑜伽師地論 141

- 庚伽遮羅浮迷 141
- 維摩經 47
- 維摩義疏 135
- 姚顯, 嵩, 爽 38
- 姚興 38, 40, 41, 45, 46, 149
- 姚泓 38
- 姚頌德 40
- 姚緒 45, 46
- 姚萇 37, 38, 39, 40, 45, 46, 168, 172, 173
- 姚略 45
- 楊弘仲 36
- 楊弘忠 30

ラ

- 羅什(鳩摩--) 39, 40, 41, 43, 44, 46, 47, 48, 49, 57, 117, 119, 129, 133, 134, 150, 153
- 李應榮 69
- 陸澄 29, 52
- 龍樹 9, 122
- 劉淵 9, 38
- 劉顯 12
- 劉孝儀 32
- 劉聰 3, 6, 9, 38
- 劉宣 38
- 劉裕 47
- 劉曜 3, 6, 9, 38
- 劉和 9, 38
- 了本生死經 8, 48
- 了本生死經序 58, 60, 86
- 了本生死經注 53, 56, 62
- 林百升 17
- 靈帝 88, 116
- 盧歆 12, 13
- 呂光 39, 40, 41
- 呂纂 40
- 呂紹 40
- 呂超 40

索引

僧弼 48
 僧富 44
 僧茂 146, 170, 173
 僧祐 3, 52, 56, 57, 58, 59, 60, 61
 僧碧 48, 173
 僧略 170, 173
 僧朗 44, 45, 134, 135
 綜理衆經目錄(經錄) 3, 19, 21, 22, 55, 56
 孫權 88, 97
 孫綽 41, 52
 孫哲 32
 孫和 117, 122
 尊婆須蜜菩薩所集論 162

夕

大愛道品 171, 174
 大安般守意經 82
 大因經 85
 大緣方便經 85
 大十二門經 8, 97, 98
 大十二門經序 94
 大乘舍黎婆擔摩經 89
 大乘稻芊經 89
 大智度論 108, 117, 129
 提婆 122, 137
 大比丘尼五百戒 20, 21
 大毘婆沙論 67, 141, 142, 143, 144, 145, 150
 大般若 119
 大品經序 134
 大品, 小品 119, 120, 121
 大品般若 47, 49, 119, 120, 125, 135
 大明度經 83, 119
 大論 47, 49
 太武帝 47
 達摩多羅 141
 達摩多羅禪經 141
 短主簿 29

段隨 12
 郝超 29, 43, 46, 98
 智正 41
 竺侯征 69
 竺朔佛 23, 116, 117, 120, 121, 122
 竺叔蘭 34, 120, 123
 竺昌蒲 13
 竺潛, 字法深 7
 竺僧輔 6, 7, 65
 竺道安 42
 竺道壹 42
 竺佛朔 120
 竺佛調 44, 120
 竺佛念 33, 36, 61, 103, 106, 109, 111, 120, 146, 151, 153, 162, 164, 166, 169, 170
 竺法護 34, 53, 68, 72, 81, 82, 123, 125, 126, 130, 132, 133
 竺法濟 7, 74
 竺法雅 15, 44
 竺法寂 120, 126
 竺法汰 13, 14, 15, 16, 20, 21, 30, 41, 42, 43, 44, 45, 46, 57, 59, 127
 通武支 69
 天親 153
 天台大師 150
 長阿舍 108, 174
 張殷 28
 張少安 117, 122
 趙政(字文業) 138, 139, 142, 162, 166, 168, 169, 170, 172
 超日明經 126
 中阿舍 37, 148, 149, 166, 168, 171, 172, 173, 175
 注小十二門 53, 56, 58, 60, 62
 注大十二門 53, 56, 59, 61, 62
 中本起經 168, 174
 中論疏 58
 陳慧 66, 75, 76, 77, 78, 79, 82, 83

度世經 167
 童覺 153
 稻芊經 89
 道行經序 114
 道行指歸 56, 57, 58
 道行集異注 53, 56, 58, 60
 道行般若經注 34, 58, 59, 63
 道行品(=經) 116, 119, 120, 121, 122
 道樹經 82
 道地經 6, 66, 67, 69, 70, 71, 72, 81, 166
 道地經序 3, 6, 7, 57, 59, 60, 62, 63, 72, 85, 118
 道願 41, 44
 道賢 33, 103, 107
 道護 14, 15, 95, 97
 道恒 48
 道恒(心無義) 46
 道慈 171, 172
 道生(竺) 42, 46, 48
 道進 44
 道整 142
 道宣 32, 33
 道挺 145
 道融 48
 道立 44
 曇壹 46
 曇戒 41, 44
 曇微 8, 27, 44
 曇究 151, 153
 曇景 111
 曇濟 58
 曇順 48
 曇嵩 170, 173
 曇相 15
 曇二 46
 曇摩侍 33, 103, 106, 108, 109, 111, 114, 169

曇摩多羅利 140
 曇摩難提 37, 138, 143, 149, 162, 164, 169, 170, 171, 172, 173, 175
 曇摩婢 36, 130, 133, 147, 150, 170
 曇無識 121
 曇無蘭 101, 108
 曇邕 44, 47
 曇影 48
 曇翼 8, 27, 44

ナ

那連提耶舍 23
 膩伽王 166
 二衆從解脫緣 172
 入阿毗達磨論 144, 150
 人本欲生經 8, 56, 60, 62, 84, 85
 人本欲生經注撮解 54, 56, 58, 60, 62, 96

ハ

婆須蜜 153, 161, 162, 164, 167
 婆須蜜集經 36, 143, 161, 169, 171, 172
 婆須蜜集經序 59, 61, 161, 167
 婆素跋陀 151, 152, 154, 157
 馬鄭 131, 135
 波羅提木叉 109
 帛延 126
 帛元信 125
 帛尸梨蜜多羅 20, 23
 帛純王 40, 41
 白法祖 173
 般泥洹經 88, 173
 般舟三昧經 121
 范宣子 16
 般若經 101, 119, 122, 133
 般若道行(道行般若經) 19, 34, 63
 比丘大戒序 11, 26, 59, 61, 102, 107, 108, 154, 172

索引

迦膩色迦王 150, 166
 戒因緣經 112, 114
 懷帝 3, 6
 郭黑略 9
 覺天 102
 赫連勃々 47
 桓温 29, 34
 桓冲 34
 桓帝 122
 韓林 77, 82
 桓靈二帝 116, 122
 祇多蜜 125
 祇多羅 34, 123, 125
 俱舍論 144, 150
 九十八結解 54
 鳩摩羅佛(又ハ跋)提 36, 110, 111, 130, 132, 151, 153, 154
 弘明集 98
 華嚴經離世間品 167
 闍膩(色伽)王 165, 166
 郗超 29
 賢劫八萬四千度無極經解 53, 62
 玄奘 150
 彦琮 133
 獻帝 88, 168
 幻網經 169
 權翼 35
 彭城王 13
 興起行經 168
 光讚抄解 52, 62, 63
 光讚折中解 52, 56(?), 63
 光讚般若經 19, 34, 119, 122, 123, 125, 128, 129, 130, 137
 康僧會 8, 23, 66, 75, 77, 80, 81, 82, 83, 99, 102, 117, 120
 康法朗 15
 康孟詳 168, 171, 174
 孝武帝 29, 43, 41
 孝文帝 41

(孝)靈帝 20
 合放光光讚隨略解 34, 59, 61, 123
 侯無央 70
 今賢 152
 嚴佛調 8, 67, 68, 83, 100, 101, 102, 120

サ

西域志 55, 59
 三界諸天錄 55, 56, 59
 山賢 152
 三十七品經序 101
 三十二相解 54
 三法度論 46, 149, 152, 154, 155, 157, 172
 贊寧 24, 26
 四阿舍 110, 112, 140, 151, 170, 171, 174
 四阿舍抄 110, 112
 四阿舍暮抄 36, 59, 60, 86, 132, 135, 144, 149, 151, 152, 154, 155, 172
 四阿舍暮抄解 56, 59, 60, 61, 86, 132, 154
 四分律 108
 義指注 54
 支謙(越)(恭明) 8, 68, 79, 83, 87, 88, 117, 120, 131, 135, 168, 170, 173
 支孝龍 34, 123
 支識 5, 20, 23, 117, 121, 122, 131
 (支)道林 20, 21, 58
 支曇講 6, 7, 65, 74
 支曜 5, 60
 支婁迦識 121
 私呵味經 83
 慈氏菩薩所說大乘緣生稻蔴喻經 89
 子碧 117, 122
 思益經 47
 習鑿齒 17, 18, 28, 29, 35, 36, 42, 43, 57
 祝太玄 120



七處三觀經 85
 實相義 56, 57
 謝安 28, 29, 37
 謝石 37
 沙汰 55
 シャーリスタンバ・スートラ 89
 沙彌十慧章句 102
 釋法師 172
 釋和上(道安) 30, 32, 153
 小道地經 70
 成具光明經 5
 成具光明定意經 5, 92
 (常山)淵公 14
 襄公 36
 承索烏子 69
 蕭子雲 32
 聶承遠 123, 125
 聶道真 126
 朱序 34
 修行大道地經 165, 167
 修行道地經 66, 67, 69, 70, 71, 72, 78, 81, 83, 141
 修行經注 54, 57
 修行本起經 168, 171
 首楞嚴經 126
 衆護 64, 67, 69, 164, 166
 衆軍 154
 衆天 149
 朱子行 34, 116, 120, 121
 周玄明 120
 周提立 117, 122
 十慧章句 8, 100, 101
 十誦律 28, 107, 109, 110
 十誦比丘戒本 106
 十二門經(小) 8, 98
 十二門經 90, 93
 十法句義經 8, 54, 59, 61, 98, 100
 進行 34, 124, 126
 晋支 69

晋寶 69
 瑞應本起經 168
 世親 52, 153
 西晋武帝 126
 石鑿 12, 13
 石祇 12, 13
 石虎 9, 10, 12, 13, 16
 石弘 9
 石世 12, 13
 石遵 12
 髡參軍 29
 甄陀闍膩王 165, 166
 漸備經 127
 漸備經序 126
 冉閔 12, 13, 15
 雜阿舍 174
 雜阿毘曇心論 150
 增一阿舍 24, 37, 59, 61, 101, 166, 168, 169, 170, 172, 173, 174, 175
 僧伽先 154, 155, 157
 僧伽諦(=提)婆 36, 45, 46, 138, 146, 147, 149, 153, 154, 162, 164, 169, 175
 僧伽跋澄 36, 138, 142, 143, 149, 162, 164, 166, 168, 169
 僧伽羅刹(又ハ叉) 141, 161, 164, 165, 166, 167, 168, 172
 僧伽羅刹經 36, 59, 61, 67, 143, 165, 171, 172
 僧慧 44
 僧叡 43, 44, 47, 48, 133, 134, 135, 151, 153
 僧業 48
 僧賢 134, 135
 僧顯 127
 僧肇 47, 48, 58, 152
 僧純 109
 僧先 14
 僧導 44, 48, 151, 153

納本

昭和三十一年五月十五日 第一刷發行

釋道安研究 定價四百八拾圓

著者 宇井 伯壽
 發行者 東京都千代田區神田一ツ橋二丁目三番地 岩波 二郎
 印刷者 長野市中御所二丁目三〇番地 田中 重彌

發行所 東京都千代田區神田一ツ橋二丁目三番地 株式會社 岩波書店

大日本法令印刷・製本

落丁本・亂丁本はお取替いたします

索引
人名, 經律論名

ア		慧觀	43, 47, 48
阿鎗口解	83	慧皎	3
阿舍口解十二因緣經	83	慧嚴	48
阿儻(阿育)王	168	慧常	33, 34, 103, 107, 109, 124, 126, 127
阿毗達磨	147	慧詢	48
阿毘曇抄	110, 112	慧道	130
阿毘曇序	57, 59, 61, 140, 145	慧嵩	162, 164, 166, 169, 173
阿毘曇心序	153, 154	慧湛尼	174
阿毘曇心論	46, 144, 149, 150, 153, 172	慧持	16, 44
阿毘曇八韃度論	36, 61, 140, 142, 143, 144, 145, 147, 148, 150, 172	慧辯	34, 124, 126
安玄(都尉--)	67, 83, 101	慧永	44
安城侯	49	慧力	146
安世高	7, 21, 23, 64, 67, 69, 72, 74, 76, 77, 79, 80, 82, 83, 84, 92, 94, 95, 96, 97, 99, 101, 102, 122, 131, 166, 170	慧琳	153
安般守意經	8, 19, 66, 67, 77, 83	榮摘業	70
安般守意經解	54, 56, 58, 60, 62, 79	刻遲時	69
安般守意經注	82, 83	王嘉	39
安法華	127	王子法益壞目因緣經	173
安和上	134	王珣	29
異出十二門經	98	王稚遠	48
印手菩薩	4, 8	王莽	36
因提麗	151, 153	王猛	37
于法開	23	陰持入經	7
于法蘭	23	陰持入經序	6, 60
鬱多羅	161, 162	陰持入經注	54, 56, 57, 58, 62, 66, 73, 76, 77, 79, 93
慧歡	44, 48	カ	
慧遠	13, 16, 27, 30, 32, 35, 41, 42, 44, 46, 47, 48, 49, 57, 149, 152, 154	嘉祥大師	58
		迦旃延	140, 148
		迦旃延子	140
		迦多衍那	140
		迦多衍尼子	140

附本

印度哲學史	宇井伯壽著	重A 6	版七 六〇 中頁
佛教汎論(全二卷)	宇井伯壽著	(上)重A 5 (下)定A 5	版五 六六 中頁
日本佛教概史	宇井伯壽著	定B 6	二八 〇六 圓頁
安慧護法唯識三十頌釋論	宇井伯壽著	定A 5	六四 〇二 圓頁
四照唯識二十論研究	宇井伯壽著	定A 5	五二 五八 圓頁
印度哲學と佛教の諸問題	宮本・花山 中村編	定A 5	一五 〇四 圓頁

—宇井伯壽博士還曆記念論文集—

—岩波書店刊—



